

5.1.3 評価

(1) 評価方法

予測結果をもとに、複数案間における植物（植生）への影響の程度を整理し、事業による改変だけでなく、埋立完了後の植生回復についても考慮して、比較・評価する方法とした。

なお、B案では、土堰堤（小段）構築および搬入路設置に伴う廃棄物受け入れ停止期間が生じ、事業期間が長くなることから、埋立完了後の植生回復がA-1案およびA-2案に比して遅れることが想定される。

(2) 評価結果

設定した複数案に係る植物（植生）に対する影響の程度の比較・評価結果は表 5.4に示すとおりである。

複数案ごとに植物群落の改変面積は若干異なるがその差は非常に小さいこと、**事業実施想定区域内に重要な植物群落（原生林など）は存在しない**ことから、いずれの案も植物（植生）への影響は小さい。ただし、植生自然度がやや高いコナラーアベマキ群落（植生自然度7）の改変面積の比較では、B案が相対的に有利である。

なお、埋立完了後の植生回復までを考慮すると、B案では事業期間が長くなる分、植生回復が遅れることから、A案（A-1案またはA-2案）に比して相対的に劣る。

以上より、各案は同等であると評価した。

表 5.4 評価結果（植物（植生））

複数案	A-1案	A-2案	B案
植物（植生）に対する影響の程度	<p>改変面積は 13.72ha と 3 案の中ではやや広いが、最小面積のB案と比しても大差はなく、事業実施想定区域内に重要な植物群落は存在しない。ただし、B案と比べて、植生自然度がやや高いコナラーアベマキ群落の改変面積が僅かに大きく、相対的に劣る。(△)</p> <p>なお、埋立完了後の植生回復までを考慮すると、本案では事業期間が短く、早期に植生回復が可能なることから、相対的に有利である。(○)</p>	<p>改変面積は 13.87ha と 3 案の中では最も広いが、最小面積のB案と比しても大差はなく、事業実施想定区域内に重要な植物群落は存在しない。ただし、B案と比べて、植生自然度がやや高いコナラーアベマキ群落の改変面積が僅かに大きく、相対的に劣る。(△)</p> <p>なお、埋立完了後の植生回復までを考慮すると、本案では事業期間が短く、早期に植生回復が可能なることから、相対的に有利である。(○)</p>	<p>改変面積は 13.05ha と 3 案の中では最も狭いが、最大面積のA-2案と比しても大差はなく、事業実施想定区域内に重要な植物群落は存在しない。また、A案と比べて、植生自然度がやや高いコナラーアベマキ群落の改変面積が僅かに小さく、相対的に有利である。(○)</p> <p>ただし、埋立完了後の植生回復までを考慮すると、本案では事業期間が長くなる分、植生回復が遅れることから、相対的に劣る。(△)</p>
	○	○	○

注) ○：環境影響の観点で相対的に優位である。 △：環境影響の観点で相対的に劣る。

表 5.7 構造物等（搬入路）の配置に係る複数案についての機能面の評価および事前配慮段階環境配慮事項の総合評価

複数案	A案：谷の上部（県道539号）から搬入する案		B案：谷の下部（東側市道）から搬入する案	
	A-1案：進入路を最短化し樹林の改変に配慮した案	A-2案：カーブを避けた位置に進入口を設置する案		
想定平面図				
計画案の概要	埋立作業の効率を重視して谷の上部よりアプローチする案 県道539号のカーブに進入口を設置するため、交通危険性が課題である。	A-1案の交通危険性を解消するため、県道539号のカーブを避けた位置に進入口を変更した案である。	谷の下部よりアプローチし、交通量の少ない東側市道より搬入する案 谷の下部より進入し、土堰堤に搬入路を設置するため、埋立容量や埋立作業効率に課題がある。	
事業規模	<ul style="list-style-type: none"> 埋立容量：225万m³ 改変面積：13.7ha 	<ul style="list-style-type: none"> 埋立容量：225万m³ 改変面積：13.9ha 	<ul style="list-style-type: none"> 埋立容量：215万m³ 改変面積：13.1ha 	
機能面の評価	交通安全性	<ul style="list-style-type: none"> 県道539号のカーブから廃棄物等搬入車両が出入りするため、交通危険度が高い。(△) 	<ul style="list-style-type: none"> A-1案に比して交通危険度は低い。(○) 	<ul style="list-style-type: none"> 交通量の少ない市道を使用し、交通危険度は低い。(○)
	事業の効率性	<ul style="list-style-type: none"> 搬入路設置後に土堰堤を構築するため、廃棄物の受入れ停止期間は生じない。(○) 埋立容量は最も多い。(○) 	<ul style="list-style-type: none"> 搬入路設置後に土堰堤を構築するため、廃棄物の受入れ停止期間は生じない。(○) 埋立容量は最も多い。(○) 	<ul style="list-style-type: none"> 土堰堤構築時に併せて搬入路を設置するため、搬入路を設置する期間には廃棄物の受け入れを停止する必要がある。そのため、A案に比して事業期間は長くなり、搬入路部分の土堰堤の緑化が遅れる。(△) 埋立容量はA案に比して少ない。(△)
	総合	△	○	△
計画段階の環境面の評価	植物(植生)	<ul style="list-style-type: none"> 改変面積は13.72haと3案の中ではやや広いが、最小面積のB案と比しても大差はなく、事業実施想定区域内に重要な植物群落は存在しない。ただし、B案と比べて、植生自然度がやや高いコナラアベマキ群落の改変面積が僅かに大きく、相対的に劣る。(△) なお、埋立完了後の植生回復までを考慮すると、本案では事業期間が短く、早期に植生回復が可能なることから、相対的に有利である。(○) 	<ul style="list-style-type: none"> 改変面積は13.87haと3案の中では最も広いが、最小面積のB案と比しても大差はなく、事業実施想定区域内に重要な植物群落は存在しない。ただし、B案と比べて、植生自然度がやや高いコナラアベマキ群落の改変面積が僅かに大きく、相対的に劣る。(△) なお、埋立完了後の植生回復までを考慮すると、本案では事業期間が短く、早期に植生回復が可能なることから、相対的に有利である。(○) 	<ul style="list-style-type: none"> 改変面積は13.05haと3案の中では最も狭いが、最大面積のA-2案と比しても大差はなく、事業実施想定区域内に重要な植物群落は存在しない。また、A案と比べて、植生自然度がやや高いコナラアベマキ群落の改変面積が僅かに小さく、相対的に有利である。(○) なお、埋立完了後の植生回復までを考慮すると、本案では事業期間が長くなる分、植生回復が遅れることから、相対的に劣る。(△)
	景観	<ul style="list-style-type: none"> 予測地点から施設が視認されるが、眺望景観のごく一部の領域に留まり、周辺の樹林に溶け込み景観的な違和感を生じないことから、眺望景観への影響は小さい。(○) なお、法面緑化による修景時期を考慮すると、本案では早期に土堰堤の修景が可能であることから、想定的に有利である。(○) 	<ul style="list-style-type: none"> 予測地点から施設が視認されるが、眺望景観のごく一部の領域に留まり、周辺の樹林に溶け込み景観的な違和感を生じないことから、眺望景観への影響は小さい。(○) なお、法面緑化による修景時期を考慮すると、本案では搬入路部分の土堰堤の緑化による修景が遅れることから、相対的に劣る。(△) 	<ul style="list-style-type: none"> 予測地点から施設が視認されるが、眺望景観のごく一部の領域に留まり、周辺の樹林に溶け込み景観的な違和感を生じないことから、眺望景観への影響は小さい。(○) なお、法面緑化による修景時期を考慮すると、本案では搬入路部分の土堰堤の緑化による修景が遅れることから、相対的に劣る。(△)
総合評価	△	○	△	

注) ○：相対的に優位である。 △：相対的に劣る。